

教本だより

～参加することに意義がある～

No. 18

2012. 1. 17

高知市教育研究会

(高知市棧橋通 2-1-50)

(TEL 834-3869)

(FAX 834-3867)

<http://www.kochinet.ed.jp/kc-shikyoken/>

(Eメール kc-shikyoken@kochinet.ed.jp)

一人ひとりが課題意識をもって、意欲的に取り組む教育研究活動を！
あけまして おめでとう ございます 2012年 元旦

会員の皆様方におかれましては、新たな気持ちで新年を迎えられたことと存じます。

文部科学省において、平成20年(2008年)3月に幼稚園・小学校・中学校の学習指導要領等、平成21年(2009年)3月に高等学校・特別支援学校の学習指導要領等が改訂されました。

中学校でも本年4月(平成24年度)から全面実施されます。各学校・各校種は、さらに充実した教育課程の編成が求められる一年になります。市教研におきましても新学習指導要領に対応した研究実践をさらに推し進める大切な年であり、さらなる飛躍と充実の年になるよう努力をしなければならないと決意を新たにしているところです。本年も市教研をどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、年末に市内の書店を訪ねると、見覚えのある「いかにして問題をとくか(G. ポリア著、柿内賢信訳)」が数冊積まれていました。この本は、私が採用8年目ごろの1980年代に「問題解決」が大きく叫ばれた頃に読んだもので、あれ、どうしたのだろうと興味を引かれました。じつと書物の帯を読んでみますと、「NHK 放映 大増刷 “大人がハマる数学本”で大好評」「ビジネスシーンの論理的な組み立てに役立つ、永遠の教本。問題を解く筋みち、思考のプロセスをやさしい数学を例に説明」「半世紀以上、愛読されている超ロングセラー」と書かれています。確かにこの本は、昭和29年に問題解決の型を支える思考の方法に関する理論書として出版されたものでした。

そこで、早速大増刷の理由を知ろうとインターネットで書評を調べてみました。「<50年間、思考の軸ブレが無かった> 私は現在68歳の老技術者。この本を大学1年生、19歳の時買い求め、一気に読了しました。以来50年間私の思考の原点で在り続けました。技術者として成功した人生であったかどうかは、疑問ですが。この本のお陰で思考の軸ブレがあまりなかったように思います。多くの若い方にお勧めしたい本です。」「最近、中高年の間で数学がブームと言[ママ]うことをクローズアップ現代(2011年7月27日放送)で取り上げていましたが、そこで紹介されていたのが、本書。私は残念ながら、これまで本書の存在を知りませんでした。これを機に読んでみました。奥付をみると、昭和29年(1954年)6月25日発行、平成23年(2011年)8月20日第11版第42刷発行ですから、超ロングセラーです。内容は、文系人間の私でも、十分に読みこなせるもので、高校レベルの数学の知識があれば、問題なし、と感じました。そして何よりも、本来数学の問題を解くための方法論でありながら、仕事など、社会生活を営むうえで、困難な場面に直面した時の克服策が示唆されていること、つまり数学以外にも応用の利く点が、社会人に広く読まれている所以でしょう。」等

多数あることをカスタマーレビューより知り理解しました。因みに私が書店でみた本は、平成23年(2011年)8月30日第11版第44刷発行でした。

現在、学校は、「わかりやすい授業をすること」「教職員の資質・指導力の向上」「いじめや暴力行為の根絶」「社会のルールやきまりを守る指導の充実」「不審者対策や防災対策などの安全対策の充実」「道徳教育・人権教育・平和教育・特別支援教育の充実」「将来に渡り夢と希望を持たせる」等、質の高い教育が、児童生徒、保護者・地域の皆さん等から強く求められています。

市教研もこの問題解決のために、前掲の書物に書かれている

第1に 問題を理解すること、

第2に 計画をたてること、

第3に 計画を実行すること、

第4に 振り返ってみること、

の問題解決プロセスを大切に、教科部会、教科外部会の会員の皆さんと協力して研究実践を重ねたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

そこで、今年度の各部会の研究活動の中で、事務局が把握している実践の中から今後の研究推進の参考になる取り組みがありますので、紹介させていただきます。

昨年度から、数学塾と算数教師塾が実施されています。今年度は中学校外国語部会による英スタ(英語 Study Meeting)も開催されました。ほとんど夜間に実施されていますが、参加されている方には大変好評で、毎回参加されている方もたくさんおいでます。12月28日には外部講師を招いて算数教師塾が実施されました。年の瀬にもかかわらず、50名程度の参加があり、それぞれの思いや考えを出し合うなかで、世代間の交流も図ることができました。研修の場が人と人のつながりを作り出すところとして、重要な役割を果たしています。

上記のように、新学習指導要領全面実施の今、市教研の教科部会、教科外部会の果たす役割の重要性を痛感しますとともに市教研会員の力強さも感じます。明るい展望をもって研究・研修活動に邁進したいと思います。

新しく2012年が始まりました。1月18日(水)には、本年度最後の市教研教科外部会が開催されます。本市の教育課題解決のための提案・研究協議をお願いしたいと思います。これからも、教科、教科外部会において、さらなる研究・研修活動が推進されるようお願いし、年頭のあいさつとさせていただきます。

高知市教育研究会 会長 前田 志郎

本年もよろしく申し上げます。



3学期の主な行事（予定）

1月18日（水）	市教研教科外部会		各会場
1月21日（土） ～2月5日（日）	前期	第12回社会科自由研究作品展	自由民権記念館
2月7日（火） ～2月22日（水）	後期		
1月24日（火） ～2月5日（日）	第64回高知市小・中学生科学展覧会		潮江市民図書館3F
1月28日（土）	高知市小・中学校連合音楽会（後期）		県民文化ホール
2月4日（土）	第43回高知市中学校生徒会交流会リーダー研修会		アスパルこうち

2012年度 市教研関係行事予定

4月20日（金）	定期大会	15：30～
5月9日（水）	教科外部会（公開授業・研究協議・講演等）	15：15～
5月11日（金）	教科部会 組織づくり（必要部会のみ）	16：00～
8月1日（水）	教科外部会 半日研修（指導案検討・教材研究等）	9：00～
	市教研40周年記念講演会	14：00～
8月17日（金）	第28回 高知市夏季教職員研修会	9：30～
8月21日（火）	教科部会 1日研修（講師招聘等）	9：00～
10月24日（水）	第14回高知市教育研究集会・教科外部会（小14：30～・中15：00～）	
1月16日（水）	教科部会（公開授業・研究協議・講演等）	15：15～

2012年度 高知市における研究大会について

教研だよりNo.15でお知らせしました、2012年度の高知市における研究大会について、追加がありましたのでお知らせします。各学校・研究団体などで来年度の計画を立てる際の参考にしてください。

研究会の名称	主催団体名	会場	開催日
第19回四国地区公立小中学校事務研究大会（高知大会） 第44回高知県公立学校事務研究大会	四国地区公立小・中学校事務職員研修会	高知県民文化ホール 高知新阪急ホテル	8月22日（水） 8月23日（木）
平成24年度高知県学校図書館教育研究大会	高知県学校図書館協議会	追手前小学校 潮江中学校	11月1日（木）

高知市研究協力校の募集について

市教研が発足以来提唱している『わかる授業・楽しい学校の創造』の具現化のためには、会員一人ひとりに研究に対する積極的な姿勢とともに、職場を基盤とした研究体制・研究活動が必要であると考えられます。つきましては、高知市教育研究会・高知市人権教育研究協議会・高知市教育委員会共催の研究協力校制度に応募され、各校の研究活動の活性化のため当制度をご利用いただきたく、紹介させていただきます。

2012年度 高知市研究協力校一覧

学 校 名 【研究領域】	研究テーマ	備考
追手前小学校 【教育課程】	学校図書館教育、英語活動を基盤とした 特色ある教育課程の創造	3年目 6月22日（金）発表
横浜小学校 【教育課程】	いきいき わくわく すくすく －豊かなかかわりを通して、学ぶよろこびへ－	3年目 10月頃発表予定
市立養護学校 【特別支援教育】	領域・教科を合わせた指導の研究	3年目 1月下旬～2月上旬発表
横浜新町小学校 【生徒指導・教育相談】	特別な配慮を必要とする児童への支援のあり方	3年目 12月上旬発表
潮江中学校 【教育方法】	つながり合う学級づくり ～聴き合う わかる 高め合う 活動～	2年目 11月1日（木）発表
一宮中学校 【教育方法】	学力向上のための授業改善	2年目
【小規模校】	1校募集中	1年間
【人権教育】	1校募集中	3年間

(1) 概要

研究協力校における研究内容・研究方法などの企画・運営につきましては、それぞれの学校独自で取り組んでいただいております。研究協力校は、研究期間内に1回、市内教職員を対象とした公開授業・研究発表を実施していただくことになっています。また、その他の年は、文書発表をしていただいております。

(2) 募集について

来年度は下記の研究領域・期間で協力校を募集したいと考えています。
小規模校：1年間、人権教育：3年間

(3) 申し込み・お問い合わせ

研究協力校の申し込みやお問い合わせは、市教研事務局（TEL834-3869）、もしくは、教育研究所教職員研修班（TEL832-4497）までご連絡ください。

※各研究協力校の発表日程が決まりましたら、「教研だより」等でお知らせしていきたいと思っております。